

## 岐阜県の結核の現状 (R6年)

### 1 結核患者数・罹患率

- ・日本の結核罹患率（人口10万対）は、令和3年に低まん延国の水準である10を下回りましたが、令和4年以降は横ばいに推移し、令和6年は8.1となっています（図1）。
- ・岐阜県の結核罹患率は全国より高い水準で推移しており、令和6年は10.2と前年より増加し、全国で4番目の高さとなっています（図1）。
- ・また、令和6年の岐阜県の新登録結核患者は196人で、前年より20人増加しています（図1）。
- ・新登録結核患者のうち、人への感染性がある喀痰塗抹陽性肺結核患者の数は年々減少傾向にあり、令和6年は54人でした（図2）。

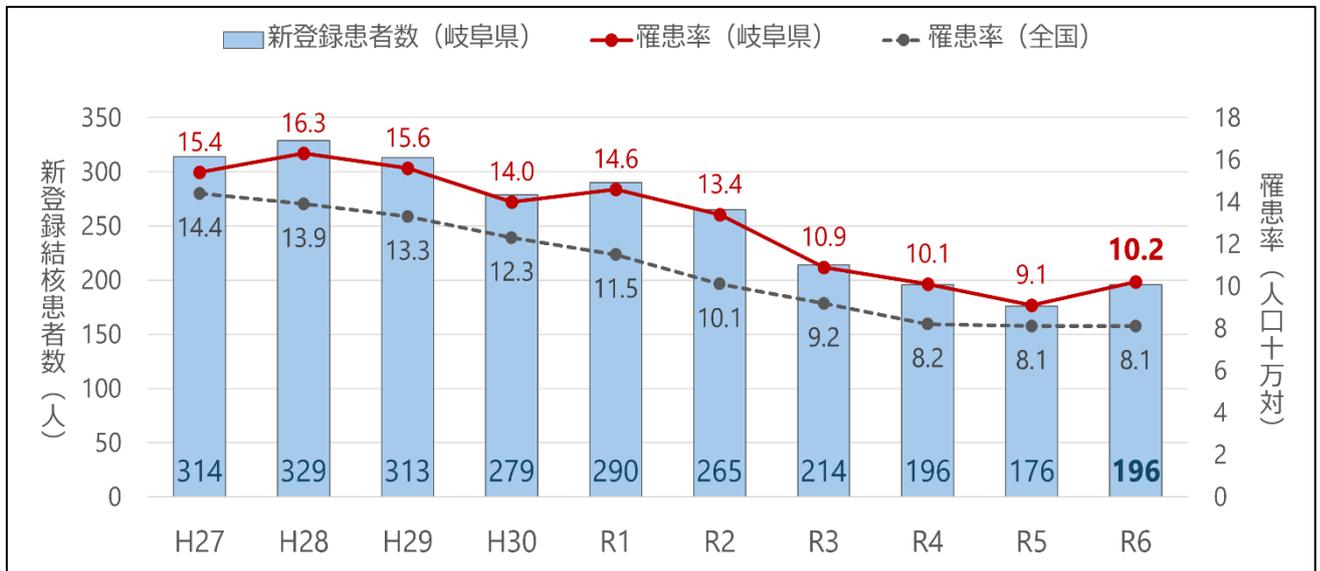


図1 新登録結核患者数及び罹患率の年次推移

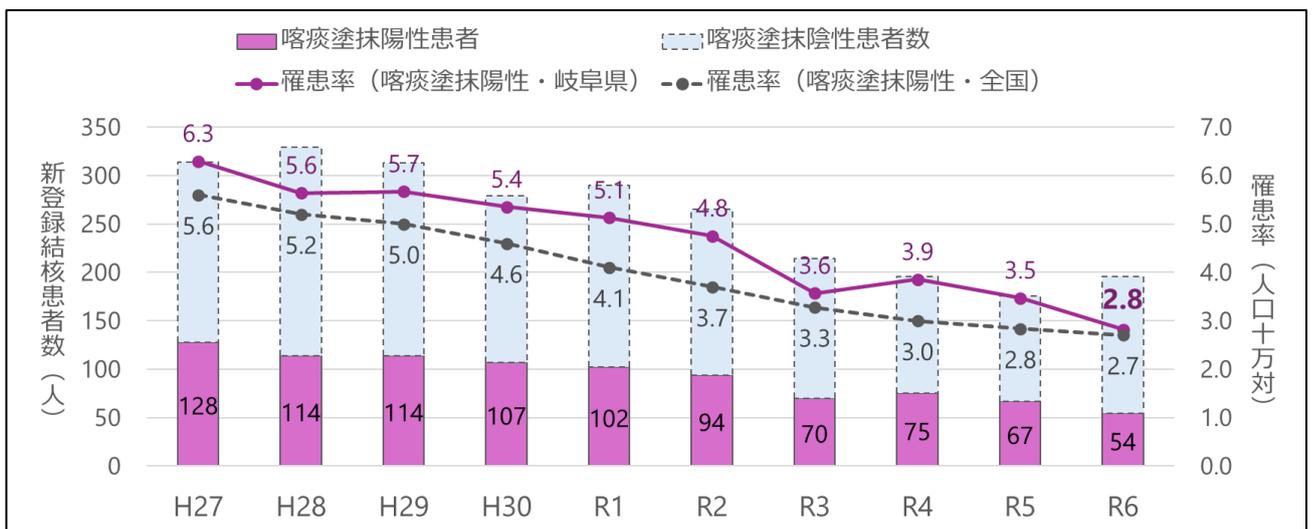


図2 喀痰塗抹陽性肺結核患者数及び罹患率の年次推移

## 2 年齢群別の結核患者数

- ・令和6年の新登録結核患者を年齢群別にみると、依然として高齢者の割合は高く、65歳以上の高齢者が全体の57%、80歳以上が39%を占めました（図3）。
- ・一方で、20代～30代の患者も多く、全体の28%を占めました（図3）。
- ・年齢群別の年次推移をみると、令和5年以降、20代～30代の割合が顕著に増加しています（図4）。

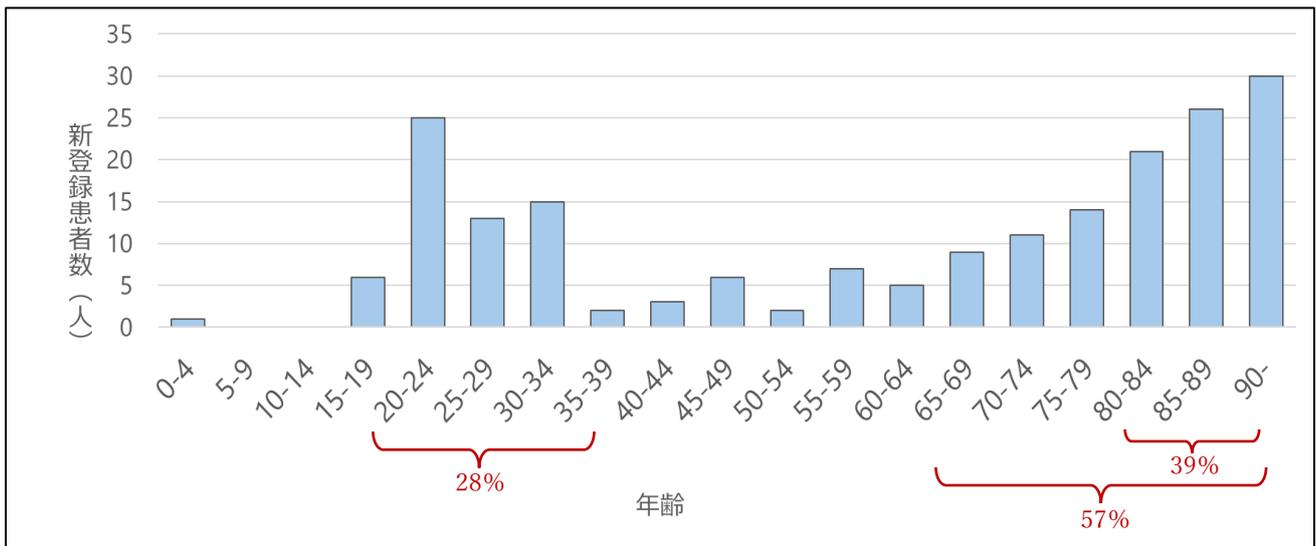


図3 年齢群別の新登録患者数（令和6年）

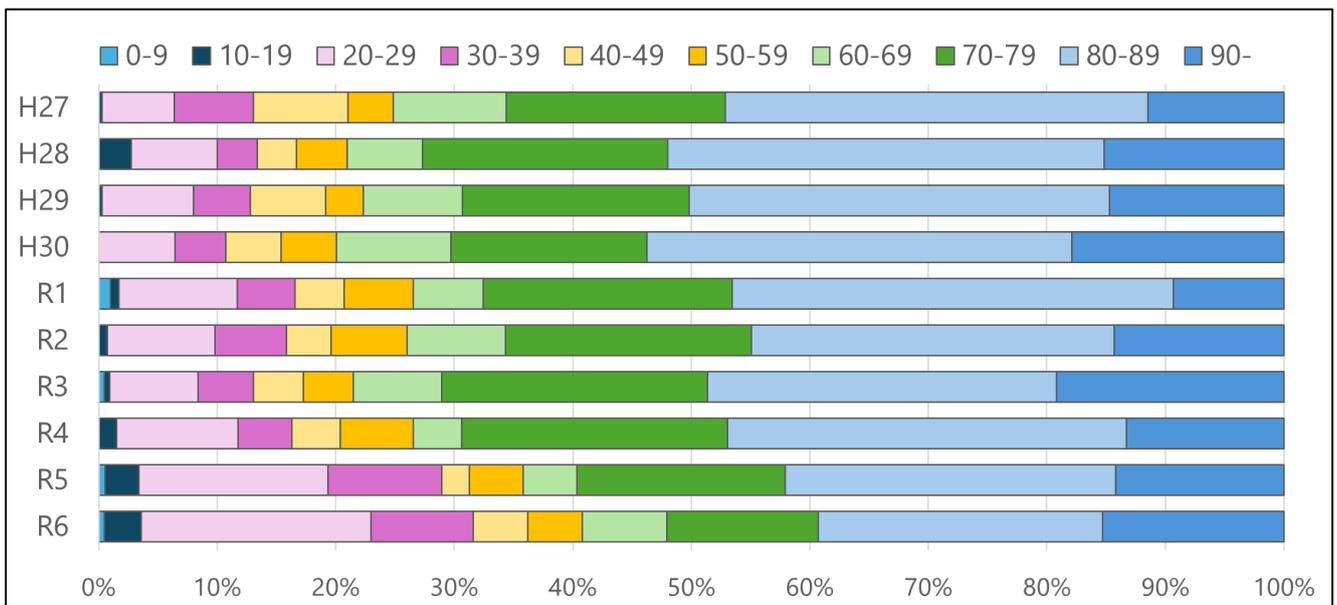


図4 新登録結核患者の年齢群別割合の推移

### 3 外国出生者の結核

- ・近年、全国的に外国出生の結核患者が増加しています。
- ・岐阜県でも外国出生の結核患者が増加しており、令和6年の新登録結核患者のうち34.7%が外国出生者で、その割合は全国（19.7%）と比べても高い状況となっています（図5）。
- ・特に若い年代で外国出生者の割合が高く、新登録結核患者のうち10代では8割以上、20代～30代では9割以上が、40代～50代でも半数程度が外国出生者となっています（図6）。

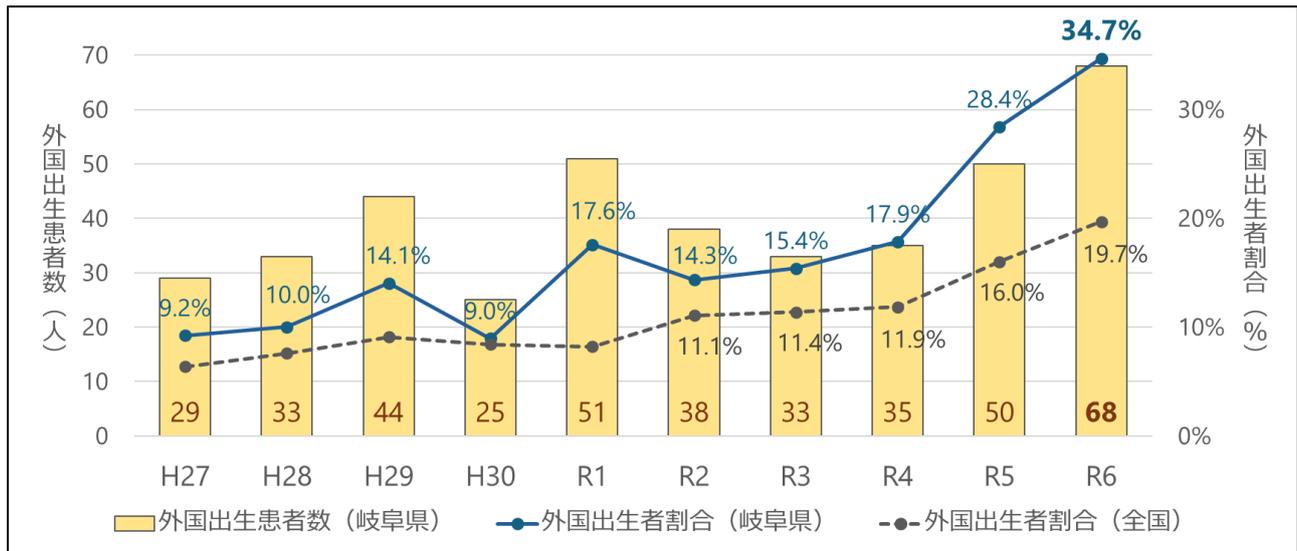


図5 外国生まれの新登録結核患者数の割合

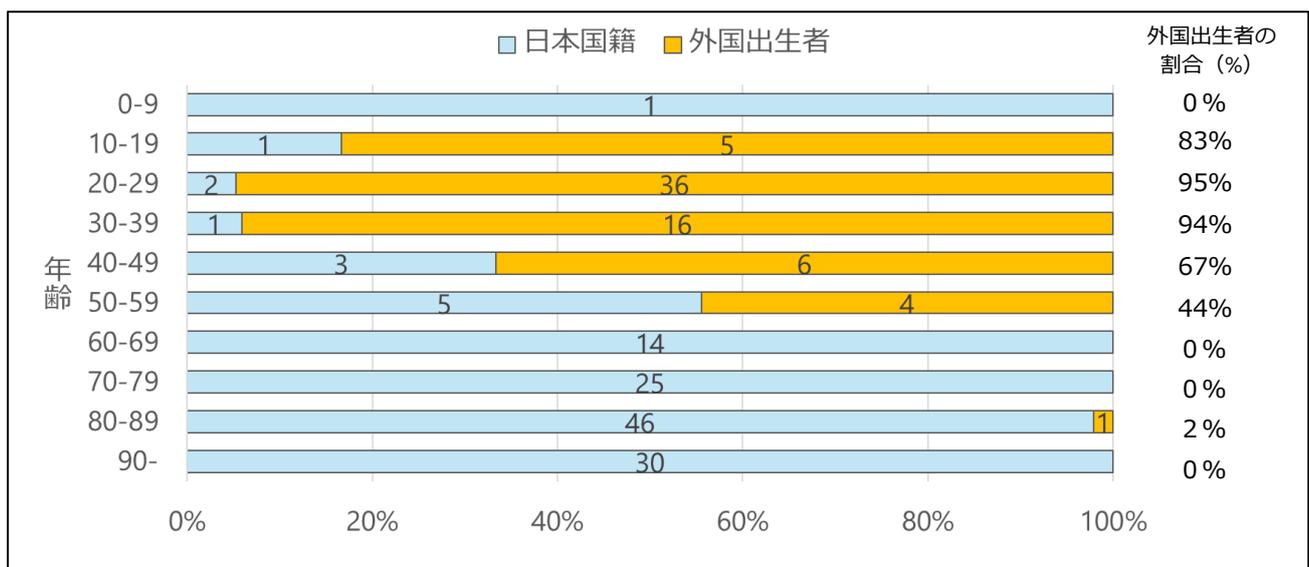


図6 年齢別新登録患者に占める外国出生者の割合（R6）

#### 4 潜在性結核感染症（LTBI）患者

・令和6年に岐阜県で新たに登録された潜在性結核感染症（LTBI）患者（結核を発病していないが、結核菌に感染し治療が必要と診断された者）は97人でした（図7）。

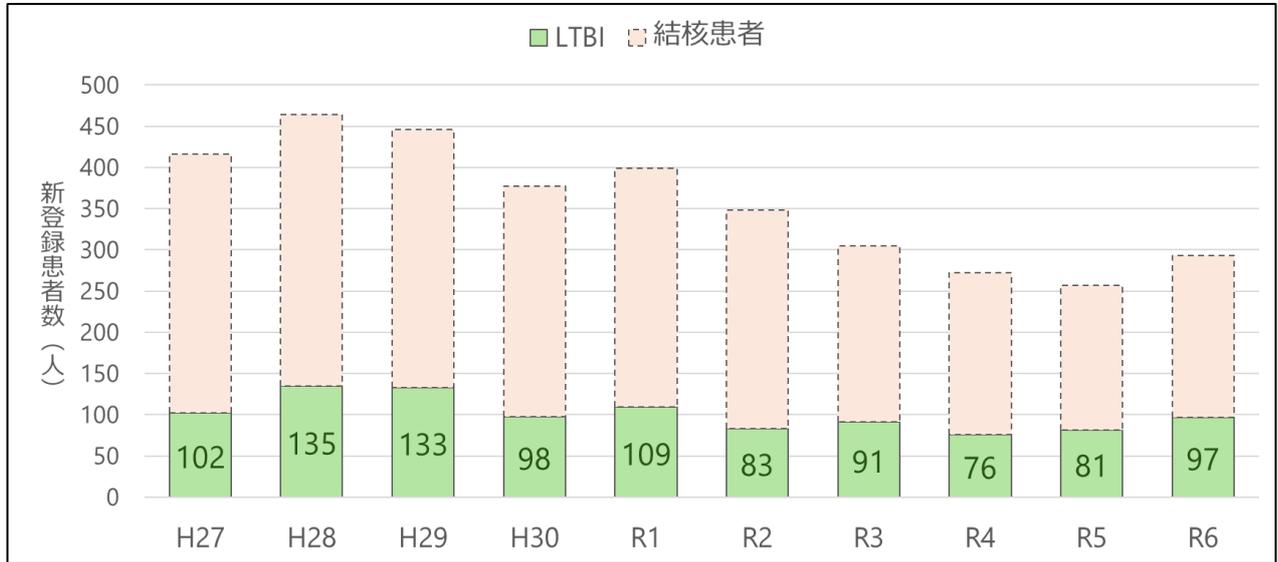


図7 潜在性結核感染症（LTBI）新登録患者数の推移

#### 5 年末時結核登録者数・有病率

・岐阜県の結核有病率（人口10万対）は全国より高い水準で推移しており、令和6年末時点の結核登録者数は396人でした（図8）。

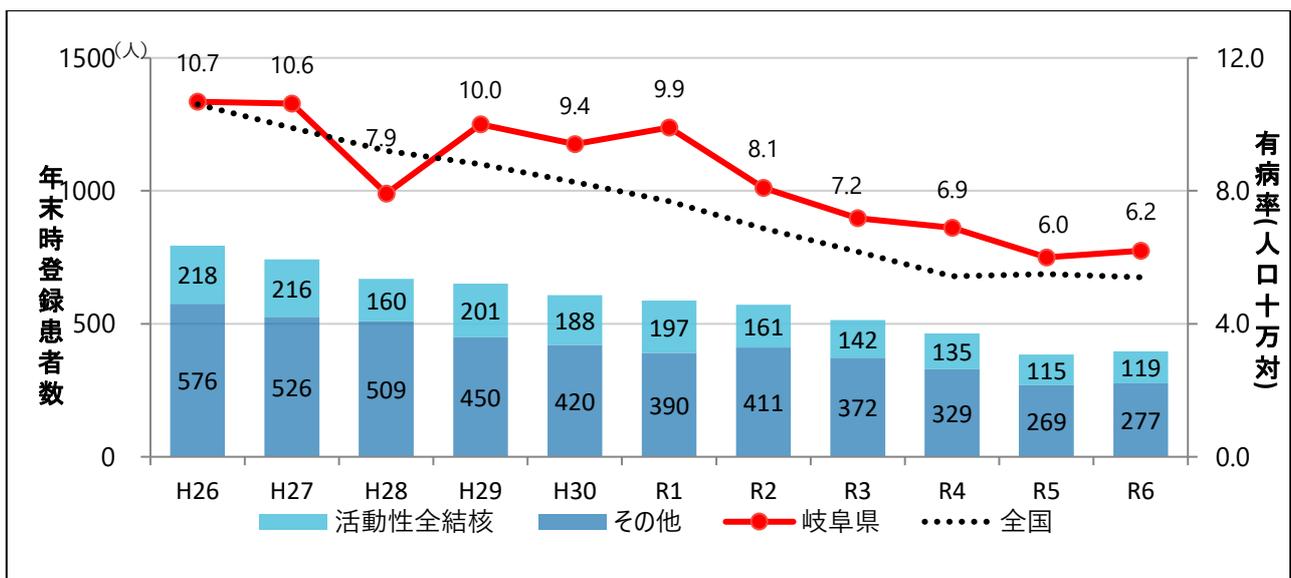


図8 年末時結核登録者数と有病率の年次推移